

埼玉育ちのグローバル人

中東、時々埼玉。彩の国から世界を覗いてみた。

第1回「ヨルダン編」

JICA 企画調査員 廣瀬 勝弘



埼玉県マスコット「コバトン」

ヨルダン編

JICA（国際協力機構）から送られてきた封書を開くと、そこには「派遣国：ヨルダン」と書かれていた。なるほど、ヨルダン。名前しか知らない…もしかして中東？え、公用語はアラビア語？そんな所で2年も暮らすの？嘘でしょ！？

2012年夏、JICAが行う事業「青年海外協力隊」に応募した私は送られてきた合格通知を開いて思わず固まりました。希望ではアジア圏で活動したいと考えていたので青天の霹靂でした。

Googleで地理を調べ、Wikipediaで概要を調べ、出した答えは「いいや、行ってしまえ」。

中東と言えば石油やイスラム教がある以外には、テロや過激派組織などマイナスイメージが想起され一瞬の躊躇があったものの、こんなチャンス滅多にあるもんじゃないと、自分を奮い立たせていました。

翌年ヨルダンに赴任し、ジェラシュ県教育局が管轄する公立小中学校を巡回して環境教育活動を行いました。ヨルダン（に限らず多くの国）ではゴミのポイ捨ては当たり前、分別やリサイクルはされず集められたゴミは全て一緒に最終処分場に積み上げられていきます。そのような状況下で、子供たちの環境意識向上のために様々な授業やアクティビティを提供しポイ捨てが減ることを目標に日々活動に取り組んでいました。



無造作に積まれた家庭ごみと、残飯を漁る猫



ゴミ拾い活動前のルール説明

ヨルダンは中東にありながら石油が採れず、主な外貨獲得を観光等に頼っている小国です。第一次世界大戦後に列強国によりつくられ、パレスチナ・イラク・シリア難民の流入など周辺国の情勢に大きく揺さぶられてきました。私の活動上のパ

ートナーもパレスチナにルーツを持つ人でした。

それでも平和を維持し、中東の中でもとりわけ安定している国だと思います。

流れてくる情報の影響から中東＝危険と捉えてしまいがちですが、ヨルダン治安も比較的良く観光にもオススメです。インディジョーンズのロケ地として使用された世界遺産・ペトラ、体が浮くことで有名な死海（死海の泥は美容に良し）、広大な砂漠・ワディラムでは満点の星空を眺めながらテントに泊まることも出来ます。

意外と知られていませんが料理も美味しいですよ。

でもなんと言っても一番は人の良さでしょうか。よく家に招いてくれたり、お茶やご飯をご馳走してくれたり、困ったときに優しく助けてくれたりと、日本が五輪招致でPRしていた「おもてなし」を地で行く人々でした。

そんな彼らに触れてヨルダン、ひいては中東地域はとても身近で特別なものとなりました。



職場のおじさん達とよくお茶をすすっていました



ヨルダンの伝統料理・マンサフ
炊いたお米の上に煮込んだ羊肉、そこに羊のヨーグルトソースをかけて食べます

この第一回目ではヨルダンのことを少しだけ紹介しましたが、次回はヨルダンから日本に帰国した後のことをお話したいと思います。